

はじめに

平成14年4月から施行された現教育課程も3年目を終えようとしています。現教育課程については、「学力」と「ゆとり」を二項軸とした論争もあり、その成果の検証が求められるところです。

そのような中、本調査研究では、「子どもの生活と学習に関する意識調査」と題し、現教育課程のもと、子どもの生活や学習に関する意識がどう変わったのかということをも、「子どもの生活に関する自己認知」、「子どもの学習に関する自己認知」、「学習に対する意識」を柱にアンケートを構成し実施しました。本研究所では、前教育課程下の平成10(1998)年に『『子どもの生活』に関する調査』、平成12(2000)年に「学習についての調査」を実施していますが、それらの結果と比較考察することで、児童・生徒理解をさらに深め、今後の教育活動に生かすことができる資料作成をねらいとしています。

アンケートの中の「パソコンや携帯電話でインターネットやメールをする時間は、一日でどれくらいですか」という設問に対して、「しない」とする回答が、小4で7割・小6で5割・中2で2割と学年があがるにしたがって減少する一方、している時間は、学年があがるにしたがって増加し、中2では、全体の2割以上の子どもが「3時間以上している」と自己認知しています。このことは、子どもたちへの情報ツールの浸透が予想以上の速さで進んでいることの証左であり、小学校段階からの情報モラルの系統的な指導の必要性を確認する結果となりました。

今回実施した調査は、項目や分析方法等においてまだまだ不十分な点がありますが、この調査結果が日々の教育活動に役立つことを期待しております。

終わりにになりましたが、調査研究のために熱心にご指導を賜りました大阪大学大学院人間科学研究科教授の近藤博之先生をはじめ、一年間にわたって活動された調査研究所員の先生方に深く感謝いたします。また、本調査にご協力いただきました関係各学校長ならびに諸先生方に厚くお礼申し上げます。

平成17(2005)年3月

茨木市教育研究所
所長 堺 陽子